

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	Aさん		
所属	文学部・大学院 総合人間 学科・専攻		
留学先機関名	カルガリー大学 (国名: カナダ)		
参加プログラム区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他 :		
留学期間	2019年2月11日－ 2019年3月15日	留学開始時 学年	2年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業(熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ!留学 JAPAN 【第 期】 <input type="checkbox"/> その他 ()		

1. 出発前の準備について

ビザの申請	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 種類()	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 現地 場所()		
留学に向けて取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他()語)				
勉強方法	英語の歌を聞いたり映画やドラマを視聴する。 1年次や2年次の教養英語のテキストを見返す。				
必要経費 (留学に必要な支払い費用) ※概算費用(およその費用)	<input type="checkbox"/> プログラム費 16708 円 <input type="checkbox"/> 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 20885 円 <input type="checkbox"/> ビザ申請 ×円 <input type="checkbox"/> 渡航費(□片道 ■往復) 225,210 円 <input type="checkbox"/> 海外旅行保険料 24,020 円 <input type="checkbox"/> 食費 10,000 円 <input type="checkbox"/> その他(宿泊追加料金) 8,400 円				

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	ALL NIPPON AIRWAYS, AIR CANADA	手配	阪急交通社 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→東京(羽田)→バンクーバー→カルガリー	到着時刻	18:31 【※移動時間(約11時間)】
大学(寮)への移動手段	<input checked="" type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> 公共交通機関(□バス □電車) <input type="checkbox"/> その他()		
空港から移動する際の注意点 行き方、料金等	カルガリー空港にはホストファミリーが迎えにきてくれた。		
宿泊先	□寮 ■ホームステイ その他()	宿泊手配	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他()
部屋の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 その他()	ルームメイト	<input checked="" type="checkbox"/> 日本人学生 <input checked="" type="checkbox"/> 他国からの学生 その他()
その他生活で必要な手続き、アドバイス (口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など)	何かあったときのためにポケットWi-FiかSIMカードを持っておくことを強く勧める。SIMカードは現地のモールなどで買うことができる。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	午前の授業は 9:00am～12:00pm。お昼休みが 12:00pm～1:00pm まであり、午後の授業は 1:00pm～3:30pm（水曜日は 3:00pm）である。午前の授業は ELS Class でスピーチングを中心に単語や文法をテキストを使用しながら学ぶ。週に一度数分のプレゼンをする。午後は発音のクラスと単語のクラス、文学のクラスの 3 種類があり、日によって異なる。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	English only を徹底していた。そのおかげで日本人の学生が多い中でも英語だけを使って生活できた。困ったことや必要な情報があれば助けてくれた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	学生証の発行。大学 ID の設定は留学が開始される前に行っていた。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ショッピングモールやダウンタウン散策、バンフ・レイクルイーズの観光をした。ショッピングモールは午前の授業の先生が行き方などを教えてくれた。ダウンタウンはホストファミリーから情報を集めたりインターネットで検索したりした。バンフとレイクルイーズの観光はホストファミリーに勧められたが、交通費が高く安全で安価な交通手段を見つけられなかったため、ホストファミリーにお願いしてバンフやレイクルイーズに連れて行ってくれる人を探してもらった。 カルガリー大学には現地学生と交流できる JCC というサークルがあり、多くの人と交流できた。JCC は同じクラスの日本人学生に教えてもらった。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

カナダは多くの国籍や考えを持った人が多く、物事を自由に考えられるようになった。大学での授業は同じ実力のある人たちでクラスが構成されているので、仲間と切磋琢磨して英語を学ぶことができた。また、お互いのできないところを補いながら活動でき、グループワークの中で活動することが以前よりもスムーズにできるようになった感じる。

ホストファミリーも大学の先生も私たちの拙い言葉を一生懸命聞いてくれるうえに、英語で話すことを促すので積極的に英語を使って生活ができた。そのおかげでコミュニケーション能力は留学前と比べて格段に向上したと感じる。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

同じプログラムの友人も私も日本と異なる食文化に悩まされたり、言葉がうまく伝わらないことによるすれ違いがあつたりと決して楽しいだけの留学ではなかった。しかし友人と励まし合いながら、ホストファミリーとのコミュニケーションを諦めることなく話すことで乗り切ることができた。1か月間日本と違う言語や文化の中で生活することで問題に悩ませられることもあると思うが1人で悩まずに誰かに相談することが重要だと思う。

大学のクラスは日本人が8、9割占めている。先生もいない休み時間になると学生の何人かは日本語で話し始める。このような環境の中でも英語を使うという強い意志が必要である。

留学を通しての感想

1ヶ月も海外で生活したことのない私には初めは不安しかなかった。カルガリーユニバーシティのクラスはほとんど知らない人ばかりで相談できる人もおらず心細かった。しかし2週間もすれば仲のいい友達もでき、休日に観光やショッピングに出かけるなどとても楽しかった。授業はテキスト中心だが、ゲームで遊びつつ学んでいくこともあり、自発的に楽しみながら英語を学ぶことができた。

英語を学ぶもことももちろんだが、日本では経験できなかったことや生まれなかった考えをこの留学を通して得ることができた。一生の中でかけがえのない、とても濃い1ヶ月間であったと思う。勇気を出してこのプログラムに参加して本当に良かった。また留学してみたいと思った。その時は今回感じた反省点や改善点を生かしつつより有意義な留学にしたいと思う。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	Bさん		
所属	法 学部・大学院 法 学科・専攻		
留学先機関名	カルガリー大学 (国名: カナダ)		
参加プログラム区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他 :		
留学期間	2019年2月11日 - 2019年3月15日	留学開始時学年	1 年次
奨学金 (奨学金を受給した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業(熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ!留学 JAPAN 【第期】 <input type="checkbox"/> その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 種類(eTAのみ)	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 現地 場所()		
留学に向けて 取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他() 語)				
勉強方法	高校時代の文法の教科書と付属のCDで勉強した				
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(およ その費用)	<p><input checked="" type="checkbox"/> プログラム費用 25万円 <input checked="" type="checkbox"/> 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 3万円 <input type="checkbox"/> ビザ申請 千 円 <input checked="" type="checkbox"/> 渡航費(口片道 ■往復) 23万円 <input type="checkbox"/> 海外旅行保険料 2万円 <input type="checkbox"/> 食費 2万円 <input type="checkbox"/> その他() 円</p>				

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	全日空、エアーカナダ	手配	阪急交通社 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	飛行機	到着時刻	2/9 18:30
大学(寮)への 移動手段	<input checked="" type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> 公共交通機関(口バス 口電車) <input type="checkbox"/> その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	ホストファミリーの迎えのため特になし		
宿泊先	<input type="checkbox"/> 寮 <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ その他()	宿泊手配	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他()
部屋の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 その他()	ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input checked="" type="checkbox"/> 他国からの学生 その他()
その他生活で必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	携帯電話のsimカードがないと、wi-fi環境以外では使えない かった方が便利だと思う		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	<p>5週間計20日間の授業 午前中 9:00～12:00 文法の授業 月曜日の午後 13:00～15:30 Idiom の授業 火曜、木曜の午後 13:00～15:30 Literature Circle(小説を読んで内容についてディスカッションする) 水曜の午後 13:00～15:00 Pronunciation の授業 金曜の午後は基本的に自由参加のアクティビティ</p>
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	学校の建物内、および休憩時間も母国語の使用は禁止されていたので英語力の向上に繋がった。学校生活やホームステイでの困ったことなどを気軽に相談しに行けるオフィスがあったのでとても安心して暮らすことができた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学IDの設定等）	UCIDカードの作成のみ
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ホストファミリーや学校の先生が教えてくれた観光地やショッピングセンターに熊本大学から一緒に行った友達や、留学先でのクラスの友達と行った。宿題も多く出ていたので、夜は基本暗くなる前には帰って宿題をしていた。また、大学が主催していたJCCという現地の学生とたくさん話せる会に放課後参加した。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

向こうの大学の学生は日本の一般的な学生と比べて、より熱心に勉強していて、自分ももっと普段から勉強をしなければならないと感じた。また、日本人はあまり積極的に発言をしたり、相手の意見に異議を唱えることをしたがらないが、外国ではそれはシャイだと捉えられるため、もっと積極的になりなさいと言われることが多々あった。初めは少し抵抗があったが、思い切って発言をしてみると受け入れてくれて、留学前よりも発言や異議を唱えることができるようになった。ネイティブと会話をするときは、いちいち頭の中で日本語に訳して考えているとスピードが追い付かなくて話についていけなくなるので、英英辞典のように英語を話す時は英語だけで考えるということができるようになった。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関するのこと、生活全般に関することなど自由に記載してください）

留学に行く時には、途中できつくなったり英語が嫌いになったり、英語を話そうとしなくなったりしてしまうと思うので、英語を話せるようになってそれをどう生かしたいのかという明確な目標を持たなければならないと思います。本気で英語を学びたかったら、日本語は緊急時以外はほぼ使わないようにすべきだと思います。そうすれば確実に速く上達すると思います。また、積極的にホストファミリーやネイティブの人と話すことも必要です。私が一番気を付けていたことは、質問されたらはっきり Yes or No で答えることです。どっちでもいいという答えは向こうでは通用しないということを初日に学びました。誘われて No と言っても、怒る人はいませんでした。逆にどっちでもいいと答えてしまうとどっちかはっきりしてといわれました。自分の意志を持って、それを相手にきちんと表現することが、日本以外の国で暮らす際には重要だと思います。

留学を通しての感想

私は、この留学で大きく 3 つのことを学びました。一つ目は、普段からもっと勉強しなければならないということです。同じ年でもこんなに普段の勉強量が違うのかと驚かされました。現地で友達になった人の一人は、「大学生は社会人と比べて自由な時間が多い。だからこそ、自分のやりたい勉強ができるではないか。」と言っていました。私も、自由な時間を使ってもっと勉強しよう思います。二つ目は、積極性です。もともと人見知りな性格でしたが、カナダの人は初めからぐいぐい話してくれたのでこちらも自然と話せるようになり、最後には自分から初対面の人に話しかけることができるようになりました。三つ目は、言語の壁は大きいということです。はじめは、言葉が思い浮かばず、日本語で表現できることすべてが英語で表現できるわけではないのでとても苦しかったです。でも自分なりに伝えようと頑張りました。自分の考えを言語の壁なく伝えることができたら、他にどんな困難がきても乗り越えられるのではないかと思うくらい言語の壁は大きいことがわかりました。たった 5 週間という短い期間でしたが、得るものが多くて、とても充実していました。今回留学に行って良かったと思うし、また機会があれば行きたいと思います。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	Cさん		
所属	文 学部・大学院 コミュニケーション情報 学科・専攻		
留学先機関名	カルガリー大学 (国名: カナダ)		
参加プログラム区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他 :		
留学期間	2019年2月11日— 2019年3月15日	留学開始時学年	2 年次
奨学金 (奨学金を受給した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 <input type="checkbox"/> その他 (



1. 出発前の準備について

ビザの申請	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 種類()	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 現地 場所()		
留学に向けて取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他()語)				
勉強方法	ネイティブが話している動画を英語字幕付きで見てリスニング力をつける。				
必要経費 (留学に必要な支払い費用) ※概算費用(およその費用)	<input type="checkbox"/> プログラム費用 30万円 <input type="checkbox"/> 宿泊費用(寮/ホームステイ等) プログラム費用に含まれる <input type="checkbox"/> ビザ申請 円 <input type="checkbox"/> 渡航費(□片道 <input checked="" type="checkbox"/> 往復) 25万円 <input type="checkbox"/> 海外旅行保険料 2万円 <input type="checkbox"/> 食費 3万円 <input type="checkbox"/> その他(交際費、お土産等) 8万円				

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	ANA、エアカナダ	手配	阪急交通社 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本、羽田、バンクーバー、カルガリー	到着時刻	18:00頃 【※移動時間(約13時間)】
大学(寮)への移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関(■バス ■電車) <input type="checkbox"/> その他()		
空港から移動する際の注意点 行き方、料金等	ホストファミリーが送迎してくれたので特になし		
宿泊先	□寮 <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ その他()	宿泊手配	■大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他()
部屋の種類	■一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 その他()	ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの学生 その他()
その他生活で必要な手続き、アドバイス (口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など)	スマホを海外でも使えるようにポケットWi-Fiを羽田空港で借りて持って行きました。学校や家ではWi-Fiがあつたので必要なかったですが、外で家までの帰り道を調べる際や観光の時に必ず必要になるので持つて行った方が便利です。 カナダは日本よりクレジットカード文化で、私が行ったお店でクレジットカードを使えないお店はなかつたです。自動販売機で飲み物を買う時だけ小銭が必要だったので、現金はほとんど持つて		

	<p>行かなくて大丈夫だと思います。</p> <p>荷物は、帰国の時にお土産等で必ず増えるので、荷物を心配してお土産を買うのを躊躇わないために、スーツケースには余裕を持たせたほうがいいです。</p>
--	---

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	<p>大学初日に、英語のテストを受けてクラス分けをされました。大学は主に月曜から木曜の 9:00～15:30 で、午前中は担任による ESL という英語の授業でした。午後は週2で Literature Circle という本を読んで考察する授業、週1で Idiom の授業と Pronunciation の授業がありました。ESL では関係代名詞や感嘆詞などの基本的なことを学びました。比較的レベルは易しかったと思います。 Literature Circle では約 300 ページの本を家で読んで授業で話し合うという形式でした。宿題で出されるページ数がかなり多く、まだ英語の本を読み慣れていなかったので、最初の方は宿題に6時間くらいかかりました。ページ数にもよりますが、最後の方は1時間くらいで流し読みできるくらいになりました。授業はかなり放任主義で、与えられたテーマをずっと生徒だけで話し合う感じでした。最後の授業で、読んだ本の映画を見て終わりました。 Pronunciation と Idiom はテキストを使って授業をしました。授業は 15 時までで終わるのが早いですが、宿題がかなり多かったので大変でした。</p> <p>また、このプログラムの一環で、スキーとスケートに行きました。カルガリー大学のサポートがしっかりしていたので何も心配ごとなく終えました。</p> <p>カルガリー大学が Only English というルールがあり、日本人同士であっても英語で会話をしなければいけませんでした。最初は中々通じなかったり、言葉にできなかったり大変でしたが、それが英語上達につながると思います。</p>
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	<p>語学面や生活面、様々なことに関して心配事があれば、すぐに相談できる体制が整っていて、とても良かったと思います。実際に私の友達も相談していて、とてもサポートがしっかりしていたと思います。</p>

留学開始後に行った 留学先大学の手続き (学生証、履修登録、 大学 ID の設定等)	<p>現地で行った手続きは、学生証を作ったことだけです。</p>
休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との 交流等) ※どうやって探したか、 きっかけなども具体的に	<p>休日は 1 日宿題をする日にして、他の日は熊本大学の友達と遊びに出かける生活を毎週していました。動物園、恐竜博物館、ショッピングモール、博物館、Banff（カルガリーの近くの国立公園）で観光しました。主にネットで見つけて、あとは友達やホストファミリーに聞きました。観光できるところは全部観光したと思うくらい見尽くして、遊びました。</p>

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、 コミュニケーション能力など自由に記載してください）
<p>カルガリー大学の Only English というルールが英語上達につながったと思います。最初は頭の中では言いたいことがあるのにそれを英語にことができませんでしたが、Only English があるので絶対に日本語を使えず、しかし言わなければ話が進まないということで、何とか伝えようと努力することが英語の表現力を豊かにし、またネイティブの使う表現を聞いて使うことで、より会話がスムーズになりました。私を含め日本人はシャイな人が多くあまりコミュニケーションを多く取ろうとしませんが、クラスでは自分から発言をしなければいけないことが多かったので、積極性が上がったと思います。ホストファミリーとは、一日あった出来事を話すことが多かったです。若い兄妹がいたので、現地の若い人の英語表現の仕方などを学ぶことができました。</p>
同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する こと、生活全般に関することなど自由に記載してください）

カルガリーは大学のサポートがしっかりとしており、心配なことがあればすぐに相談ができる体制が整っていたので、とても過ごしやすかったです。

冬のカルガリーは寒く、雪もありますが、ウィンタースポーツが盛んで簡単に楽しむことができます。また夏は気候的にもとても過ごしやすく、カヌーやカルガリー最大の祭りなどがあり一年中楽しめる街だと思います。食べ物も、カナダの料理から、中華、ベトナム料理、タイ料理などたくさん種類があり、どれも日本人の口に合う味だと思います。

プログラムもしっかりしていて取り組みやすいし、街も過ごしやすいし、本当にお勧めしたい場所です。

留学を通しての感想

留学前は、カルガリーの気候、ホストファミリーとの生活など不安なことが多かったです。終わって見ると、何も心配するようなことはなく、とても充実した日々が過ごせました。ホストファミリーと満足できるくらいにたくさん会話をすることができなかったことだけが心残りです。もう一度カルガリーに行って、その心残りを取り除きたいです。その時に英語をさらに話せるように勉強をして行きます。今回の留学での目標である英語を少しでも上達させたい、カナダの文化を学びたい、友達が欲しいは全て達成できたと思います。英語力に関しては、そこまで達成できませんでしたが、それをカバーできるくらいにカルガリーの大自然、温かい人々、街並みを感じることができました。全くホームシックに陥らない1ヶ月があっという間にすぎ、まだまだカルガリーで過ごしていたかったですが、またカルガリーに帰れるようにこれからを過ごしていきたいなと思いました。

